

1. 国民の祝日には国旗をか、げよう
2. 交通規則を正しく守ろう
3. 明るく正しい選挙を実現しよう
4. 小さな親切を広めよう
5. 小さな暴力でも追放しよう
6. 定められた時間は必ず守ろう
7. 環境の美化につとめよう

# ながさ

## NAGASU

9 月 号  
 昭和43年9月25日発行  
 通算 第 52 号  
 発行者 長洲町中央公民館  
 発行人 浮島三代喜  
 編集者 広報長洲編集部  
 印刷所 中央印刷紙工K K

人口の動き(8月分)

出生	30名	女 21名
男	9名	
死亡	14名	女 6名
男	8名	
転入	57名	女 28名
男	29名	
転出	57名	女 29名
男	28名	
世帯数	3,475	
人口	14,980	

### 献血の善意が結ぶ明るい社会

九月中「愛の血液助け合い運動」月間

#### 血液は命の綱である

血液の尊とさ

血液は人間にとって、いのちの綱であります。人間の生命が母体に宿ってから、この世に生れ、一生を終るまで、一秒たりとも休まず活動し続け、われわれのいのちを保持してくれるものは血液であります。

この貴重な血液は、一時に多量を失えば生命の営みは止ってしまいます。それで大ケガや大手術の際には、どうしてもこの失われた血液を補わなければなりません。これが輸血という事です。

何にもかえがえない大切な私たちのいのちですが、今日では、私たちのその大切ないのちも、いろいろな危険にさらされておられ、いつ輸血を必要とするような事態が起きないとも限りません。私たちは、自分のいのちを守るために、血液の尊とさを今一度考え直して見る必要があるのではないのでしょうか。

#### 手術にはどの位の血液が必要か

いったい手術には、どの位の血液が必要であるかといえ、主な手術についてみると、次の表のようになります。

手術	出血量平均cc (最小cc~最大cc)	輸血量平均cc (最小cc~最大cc)
胃全摘術(胃ガン)	529(127-1,600)	2,881(300-4,800)
胃切除術( )	304(123-744)	1,266(400-4,350)
胃切除術(胃潰瘍)	216(59-1,267)	920(400-2,200)
肺葉切除術	(47-2,333)	(400-4,200)
心臓手術	(565-1,845)	(700-1,500)
人工心肺	1,600	(1,500-6,000)

#### どの位の量の血液を失えば危ないか

全血液量(普通成人の場合)は、四、〇〇〇(五、〇〇〇cc)の4%を失っても危険はないのですが、5%を失うと血圧が非常に下がり、5%を失うと生命が危険になります。即ち、二、〇〇〇cc以上を失うと死亡することがあります。また、逆に輸血量が多すぎると一五〇%をこえるときは血圧が亢進して危険になるおそれがあります。

#### 輸血用血液はどうしてまかなわれているか

輸血の方法

輸血には二つの方法があります。一つは人体から人体へ、両者の血管をくぐらせないで直接輸血する方法です。

もう一つは、人から採血した血液を一たんある容器にうつしてそのまま、または、保存血液に仕立てて、必要なときに輸血する方法です。

人体から直接輸血する方法は昔、行われていた方法で、今日ではほとんど行われていません。保存血液を、あらかじめつめておいて、これを輸血する方法は、わが国ではごく最近になってとりあげられたもので、一般に使用されるようになったのは、昭和二十六年以後のことです。

#### 保存血液とは何か

保存血液というのは、その名の通り、保存がきくように、血液がこぼれまわらないように、用をもつ薬品と混合された血液のことです。

がかたまりたり、くさったりしないように、いろいろな薬品(クエン酸、クエン酸ブドウ糖など)を混ぜ合わせたものに混ぜ、密封されたガラスビンやプラスチックの袋の中に貯えられたものです。

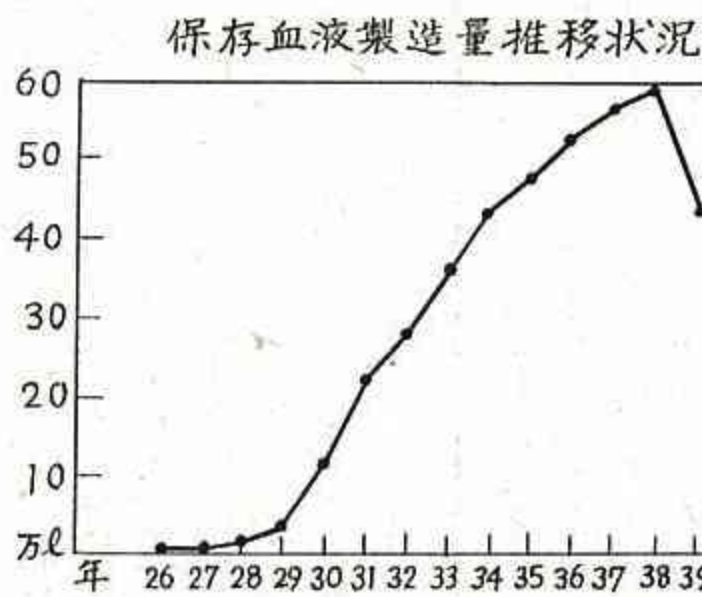
もちろん、容器や薬品に、少しでも細菌やカビが入ってはいけません。採血後四度から六度の間で保存すれば、普通採血から二十一日間は使用できます。ただ、梅毒感染の可能性をなくするための保存期間として最低四日間は必要ですから、採血後五日目あたりから使用できることになりましたので、実際の使用期間は十七、八日間程度であります。

#### 保存血液の需要は

どうなっているか

最近の外科のめざましい進歩に、保存血液の果たした役割は大きいものがあります。保存血液は、あらかじめ供血者から採血したならば、必要な検査をして製管理され、患者と同一型の血液を必要だけ確保することが容易であるうえに、輸血に当っては、交差試験だけを行って、ただちに使用することができるといふ利点をもっております。

このような保存血液の利点が認められ、医学の進歩により輸血の機会が多くなるにつれ、その需要は急速に高まってきたのです。



保存血液製造量推移状況

いま、保存血液の年次別の製造量をみると次のようになります。左の図によって、わが国の保存血液は、昭和二十六年以降急激に増加してきたことが、はっきりわかります。ただ、昭和三十九年度の製造量が減少しているのは、「黄色い血」の問題や「血清肝炎」の問題等によるものと思われまふ。しかし今後良質の血液が供給されるようになりまふと、需要量も伸び、再び製造量は増加するものと考えられます。

#### 血液の供給源は

どうなっているか

保存血液といっても、人間の血液そのものを、ある期間保存することができるようになったのですから、その血液を供給してくれる人が必要であるわけなのです。

血液は本来一般の商品と異り血液を必要とする病人のために健康な人々が進んでこれを提供するものが望ましい姿ですが、わが国では、いわゆる売血者といわれる特定の階層にその供

をまわってきたのです。昭和三十八年度における保存血液の製造量を、その供血方式別にみると、総製造量の約九七%が売血者からの供血によってまかなわれていたのです。

#### 売血は人道上、社会上的大きな問題である

何物にもかえることのできない尊い血液を、金で売り買いうるという事は、人道上からみても大きな社会問題であります。即ち、売血者の中には血を売って生活の足しにしたり、遊興費にしたりするために、一カ月に十何回という無理な採血を受けるために、体をこわし、貧血症となり、甚しきは死に至ることもあるといわれています。売血者はいわゆる「売血者」は背に腹はかえられぬといえます。しかし、他人の生命を救うため自分の体をこわすというのでは、人道上からも見逃すことのできぬ問題です。このことは

#### 国における血液対策

今日では、日本国民の大部分の人は、売血が人道上問題をはらんでいるものであるとともに売血の弊害についても次第に認識を深めてきております。この、国民全般の認識の盛り上がり、昭和三十九年八月二十

液(名)は、血液総製造量に対して約七・七%になっております。その後、四十年一・九・六%、四十一年六月以降五〇%の線を越え、四十二年六月には赤字だけで六〇%と大巾に伸びていますが、これは国民の方の善意と協力の賜であり、国民の保健衛生上よろこばしいことでもあります。

一つの大きな社会問題としてお互いが本気で考えなければならぬものであると思ひます。

また輸血を受けた側からいえば、折角輸血を受けたにもかかわらず、折角輸血を受けたにもかかわらず、薄い血であるため治りが遅くなった、やかえって血清肝炎などのやっかいな病気がなったりしたのは由々しい大問題である、いわなければ、なりません。

一日の「献血推進のための閣議決定」となって現われたものと見ることが出来ます。

売血をなくしてきれいな良質の血液を確保するためには、献血の血液を集める以外には方法はありません。即ち、平素、健康な人々がお互いの助け合いの力で血液を病人のために提供し合うという、人間として高度の社会連帯意識により、人道的立場に立つて献血を推進する外は解決策はないのです。

国、県並びに日本赤十字社において、この見地に立つてわが国の血液事業を献血によって解決するため、現在非常な決意をもって取り組んでおられるのです。

#### さざなみ

◎台風十号を境にして、秋はかけ足にやってきました。空の色、雲のただずまい、朝夕の空気の肌ざわりにも秋の感触を感じる。

秋は野の草花のきれいな時でもある。朝露をふんで通る野道にきれいな野菊が咲き乱れ、農家の庭にコスモスが咲き、新芽の丈なすすも穂をひらき、やがて、木々の葉が色づき染める頃、秋はいよいよ深くなっていくだろう。

◎九月八、九日の両日、中央婦人学級生の国立阿蘇青年の家研修旅行があった。参加者七十余名、貸切バスに乗って、国道二〇八号線を一歩阿蘇路へ向った。雄大な阿蘇五岳を望み、緑の草原を走る快適なドライブは爽快の一語につきる。青年の家での折目正しい一泊二日の研修は学級生に深い感銘を与えた。わが家を離れ、大阿蘇の大自然の中で寝食を共にすることが、学級生を推し進めた。◎目まぐるしい現代の世相の中で、文化器具に囲まれて生活している息苦しい現代人に、いだから生活して行くことも大切なレクリエーションではないか。◎九月十日、清里小カールの落成式とプール開きが行なわれた。

秋晴の空の下、すみきった水の中に、しぶきを上げて泳ぐ子どもたちの嬉しそうな顔、顔、顔。今年の水泳シーズンに間に合って、本当によかったと喜ぶ関係者や父兄の顔。これからは、このプールを十二分に活用したい。◎九月十五日は「敬老の日」である。長洲町でも例年どおり十五日に敬老会を実施した。本町では、数え年八十才で敬老会に招待するが、今年も招待者は、男八八名、女一七四名、計二六二名である。新らしく八十才になった人が四六六名、昨年招待された人が二四六名に比較すると総計で五人の減である。最高年齢者は、上沖洲の町筋マキさん(九八才)男では永方の中山蔵吉さん(九五才)である。来年も又、お元気で敬老会に来られるようご自愛を祈りたい。◎秋は又、月のきれいな季節である。青年の家で見た月もきれいな十六夜月であった。

#### 町政日記

- 8. 1 土地改良区役員会
- 8. 3 第5回町臨時議会
- 自衛隊協力会
- 8. 4 郡民体育祭
- 8. 5 永方農業倉庫起工式
- 六小改築委員合同協議会
- 建設委員会
- 8. 9 民生委員会
- 8. 12 選挙管理委員会
- 8. 13 農業構造改善事業入礼会
- 8. 19 一日お父さん
- 自衛隊協力会総会
- 8. 24 堤メリヤス工業K. K起工式
- 8. 26 農業構造改善事業推進協議会
- 8. 28 建設委員会
- 8. 30 消防防災会議
- 8. 31 総務委協議会
- 9. 1 郡町村議員ソフト大会
- 9. 2 老人クラブ作品展
- 9. 4 六小改築打合せ会
- 9. 5 駐在員会
- 9. 6 土地改良区総代補欠選挙
- 9. 8 郡身体障害者体育大会
- 9. 9 金婚夫婦表彰
- 9. 10 清小プール落成式
- 9. 11 はり、きゆう、あんま
- 9. 12 無料サービス
- 9. 13 民生委員会







非行少年とは、良くない行ないをする人達の事で、また、自分に勝てなかったかわいそうな少年少女の事です。ではどうしてこのような人は、非行に走ったのでしょうか？

な、強い志を持つ事を、青少年に要します。そして今まで育て、もらった親の恩も忘れて、また常に「自分」をみつめて、毎日反省し、時間の希望にあふれた日を送りたいものです。次に第二の「親の冷たさ」について、考えてみましょう。

社明運動作文入選

腹袋中一年 本田恭子



では、第一の「自分の意志の弱さ」について、意志とは、物事をなすとげようとす心の事です。たとえば、悪友から悪い事をかけられて、きつぱり断るような意志、また、これは悪い事、これは良い事と言うように、はっきり自分で判断できて悪い事は、ぜったいやらず、良い事は進んでやるような心、私はこのよう

親のあとをついてくるもので。母親の方も、子をあまりやかしながらも、暖かく子供を見守りながら、真つすぐな道を導びながら、歩いていかれます。それが、中学生ごろになると親は「もう大きいんだから、何でも一人でしなさい」と、今まで握っていた手を放してしまわれるのです。すると、子供は親にかまっ

「明るい住みよい町」とは、いつたにどういふ町だろうか。ぼくの考えでは、「美しい楽しい町」がこれに当てはまると思

子供は親に、何でもうちあけたいものです。全国のお母さんお父さん！子供のよき相談相手になってやって下さい。明日の日本を、背おって立つ青少年、それなのに、非行少年として育て、どうして立派な日本になりましょう。

「明るい住みよい町」とは、いづれにどういふ町だろうか。ぼくの考えでは、「美しい楽しい町」がこれに当てはまると思

さつをかかずことである。朝晩のあいさつは勿論のこと、昼でも、会った時はちょっと頭をさげる位の行ないがほしい。そうすることによって少しづつ努力すれば、何となく、大きく実る時が来る。それで私達は、その日を日ざして「明るい住みよい町づくりに」努力していかなければなら

よ「われら」都民との対話」のように「町民との対話」を是非実施してもらいたい。町民は色々意見、質問などを持って、機会がないだけである。それで各部落を回って町民の率直な意見を聞いてもらってほしい。そうすることによって、町政に町民の意見をよく取り入れることができ、りっぱな町作りが強力におし進められるだろう。

後三時間で青年の家に到着、緑の草原で、放牧の牛馬を見ながら車座になって中食の弁当をとる。午後一時入所、オリエンテーション。午後二時五十分より四十分まで、県教育研究所次長の高木盛義先生の「婦人会運営について」の講演を聞く。暖かい人間関係の確立が会の運営に大切だと説かれる。それから夕食前の一時間草原ハイイクで野営地キャンプ場巡りをし、集会場の広場で各校区対抗ののど自慢大会でにぎやかな雰囲気になる。午後五時二十分から玄関前広場で夕べの集いである。阿蘇五岳を望み、緑の草原を背景に美しくはためいている国旗の降納と各団体の自己紹介がある。その頃長洲から中逸町長が車でかけつけられた。

郷土の遺跡を訪ねて

古塔、新塘等を町文化財に指定

町教委



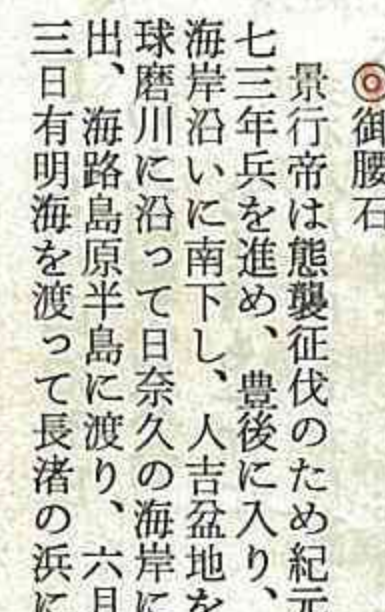
古塔

長洲町は熊本県下でも文化財の真空地帯といわれている。国指定の文化財も県指定の文化財も現在までないところから、そういわれてはいるのである。でも、長洲町は文化財の真空地帯でも、文化財の不毛地帯でもけしてないの



古墳

の戦から応仁の乱、戦国時代と国内が麻のように乱れ庶民の生活が毎日不安であった。それで、当時の人々は自分の力以外に神仏に頼る外に道がなく、生活の安泰、五穀豊穡、天下太平を祈念して建立した。



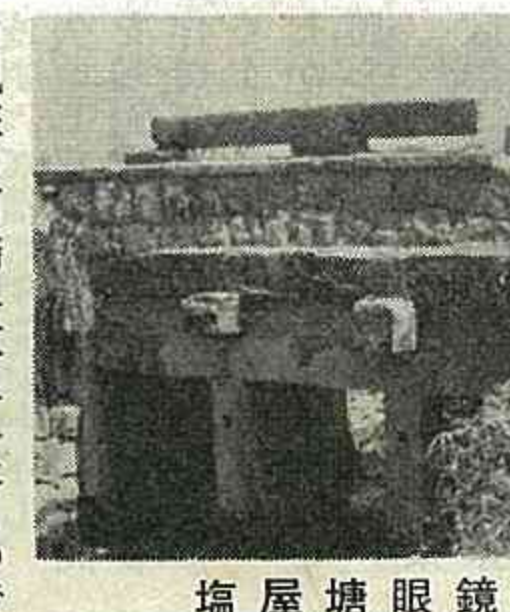
御腰石

景行帝は熊襲征伐のため紀元七百年兵を進め、豊後に入り、海岸沿いに南下し、人吉盆地を球磨川に沿って日奈久の海岸に出、海路島原半島に渡り、六月三日有明海を渡って長洲の浜に



放牛地蔵

この放牛地蔵は享保十五年(一七三〇年)四月十二日に他力願主放牛により建立されたものである。今を去る約二八〇年前細川第三代の当主網利公の時城下町熊本の大工町で貧しい鍛冶師の親子が住んでいた。息子は大変親孝行で、毎日稼いだ金で父七左衛門に酒を買って飲ました。しかし、ある年の正月、仕事がなく収入がなかったのを酒を買うことができなかった。父は腹をたて、火吹竹を息子に投げつけた。それが誤って、道を通っていた細川藩の家臣大矢野源左衛門の眉目に当たり、割れて血が流れた。怒った源左衛門は父を手打ちにしようとした。息子は自分を身代りに



塩屋塘眼鏡橋

現在石橋に改良したものである。塩屋塘の築堤により六、七、八、九の五間余の田畑が開かれた。塘の長さは百五間という。加藤清正が作った橋として当時で残された唯一のものである。東方アーチ形、西方角形になっている貴重な文化財である。

阿蘇の大自然に学ぶ

婦人学級研修記



阿蘇の大自然に学ぶ

九月八、九日の両日、長洲町中央婦人学級生七十余名、国立阿蘇青年の家で一泊二日の研修を行なった。八日、午前八時半集合、貸切バスで公民館前出発。秋晴れの玉名平原、杉並木の津野街道、緑色の阿蘇盆地を一路青年の家に急ぐ。出発後三時間で青年の家に到着、緑の草原で、放牧の牛馬を見ながら車座になって中食の弁当をとる。午後一時入所、オリエンテーション。午後二時五十分より四十分まで、県教育研究所次長の高木盛義先生の「婦人会運営について」の講演を聞く。暖かい人間関係の確立が会の運営に大切だと説かれる。それから夕食前の一時間草原ハイイクで野営地キャンプ場巡りをし、集会場の広場で各校区対抗ののど自慢大会でにぎやかな雰囲気になる。午後五時二十分から玄関前広場で夕べの集いである。阿蘇五岳を望み、緑の草原を背景に美しくはためいている国旗の降納と各団体の自己紹介がある。その頃長洲から中逸町長が車でかけつけられた。



